

日本における朝鮮語¹辞典の現況

巖 基珠

(『専修大学外国語教育論集』第34号、2006.3)

日本において朝鮮語学習者の数もかなり増えてきた。日本人学習者は朝鮮語についての判断の殆どを辞典に頼るほかないので、辞典の存在は大きい。しかしながら学習者の立場からみて辞典に要求される最低限の条件は意外にも単純なもので、内容の正確さとの確さしかないと言することができる。この点に注意しながら、一般学習者向けに日本で出版、販売されている朝日辞典にはどのようなものがあり、どのような特徴があるのかを検討してみる。検討は辞典全般の事項に至るが、辞典利用に大いに関係する見出し語の並べ方については問題にしないことにする。その差は北と南の差による場合が多いからである。日本における朝鮮語教育は70年代頃までは北のものに依拠して行われたが、その後南のものに変わり、それによって辞典の見出し語の並べ方以外にも綴り、語彙なども違ってくる。

筆者はこの分野の専門家でもないので専門的な知識を述べることはできない。ただの朝鮮語の母語話者として、朝鮮語を教える立場のものとしての素朴な検討なので見落としや間違いが多いと思う。そういう点に関してはご理解をいただきたい。

1. 各辞典の特徴

①『朝鮮語辞典』朝鮮総督府、1920年3月

日本における最初の本格的な朝鮮語辞典は、この辞典のようである。1974

¹ 韓国語・コリア語と同じ。以下「朝鮮語」を使う。

年 12 月, 国書刊行会が復刻した。特徴の一つは, 時代の研究状況を反映して, 漢語や吏読²を沢山載せていることである。その例は以下のようなものである。

是去乃(이거나) <句> 「あれでもこれでも」の「ので」の意(吏読)。(敬称, 是白去乃)

吏読は, 現代語では完全に姿を消したが, この辞書が出版された時代までの文献を読むためには欠かせないものだったと思われる³。次の特徴は, 見出し語の意味を日本語で提示する際, 以下のように同義語で提示した点である。

視力(시력)<名> 「眼力」(안력)に同じ。

この辞典ぐらい同義語を多く提示してくれた辞典はその後も見つからない。そういう点では単なる特徴というよりこの辞典の優れた点であろう。また用例がある見出し語が多くはないが, ある場合は以下のように分かりやすく, しかも重複がないように配慮して提示している。

던지<助> 二個以上の事物中より何れかを選択し, 若しくは其の何れにても可なることを表はす辞。でも。なりとも。

㉠ 「이것이던지그것이던지사주시오」(これなりそれなり買って下さい)。

「當身이가던지안이가던지나는 相關이업소」(あなたが行つても行かなくても私は構ひません)。

②『大学書林朝鮮語小辞典』宋枝学, 大学書林, 1962 年 12 月第 1 版, 1974 年 1 月第 59 版

12 年間 59 版を出版したということは, その時代にはこの辞典しかなかったという意味ではなかろうか。在日朝鮮人の存在が考えられるが, それにしても朝鮮語学習者の数が多かったのではないかと推測される。

² 漢字の音や訓を借りて朝鮮語を表記した借字表記法の一つ。

³ この部分は印刷後、東京外国語大学の伊藤英人氏のご教示で直したものである。

この辞典は、見出し語 11400 語、総語数 25000 語を載せ、常用語 1650 語には印をつけている。この辞典は、アルファベットでハングルの読み方をつけ、用言は本国で出版された辞典と同じく原形を見出し語にしながらも、日本人学習者に難しい変則活用用言には以下のように見出し語の読み方のすぐ後ろに用言の変化形も提示している。このような方法は後の辞書にも受容された。

돌다 to:lda 도니, 도오[自] めぐる;まわる;遠まわりする;ひろまる。기계가
~機械がまわる。운동장을 한 바퀴 ~ 運動場を一周する。

しかし、辞典作りの原則には反するかもしれないが、学習者にとっては、見出し語にあれば便利な過去を表わす－았/었/였－や回想を表わす－던－などが付録の文法説明には載っているものの、見出し語には含まれていない。用例が足りない点も含めて、これは小辞典の限界であろう。

③『現代朝鮮語辞典』天理大学朝鮮学科研究室，養徳社，1967年1月

大きさが小辞典で、凡例にも小辞典であると書いてあるが、12万語も収録しており、見出し語のレベルでは中辞典である。しかし、ハングルの読み方が付いていない、用言は原形だけ載せているという点では日本人学習者に対する特別な配慮がない。全体的に用例があまりない点は(②大学)⁴の如く小辞典としての限界だが、(①総督)や(②大学)の辞典に比べると、重要な活用語幹や語尾についての説明が整っており、特に以下のように文法的に重要な見出し語に関しては、日本語訳を直接提示するより用例を通して使い方を提示するなどの工夫がなされている。この点は辞典としての確実な進歩だと思われる。

⁴ 以下、辞典をとりあげるときは、1で各辞典につけた番号に出版社を括弧の中に入れて(②大学)(③養徳)のように表示する。

『大学書 林朝鮮語 小辞典』	-겠-	ket[助] (未来 を表す 助詞)	…だろう。	먹~다. 食べるだ ろう。
『現代朝 鮮語辞 典』	-겠-	(助幹)	①語幹に付いて決心, 約束などの意志のある未来の意を表す。	나는 꼭 성공하~다. 私は必ず成功する。그럼 힘써 보~다. それじゃ力を入れて見よう。
			②単なる推量の意味を表す。	내일은 비가 오~다. 明日は雨が降るだろう。
			③単純未来の意味を表す。	그럼 가~다. それじゃ行くよ。*리. 으리.

この辞典は、昭和55年、字を大きくし、誤りの訂正、説明語の整理、表記・形式の統一、見出し語の補充という趣旨で改訂された。この時、以下のように古語がほぼ省かれる。勿論1980年なら日常的に古語が使われる時代ではない。しかし、近代の文献を読むには改訂前に載っていた古語があれば役に立つのではないかと思われる。古語辞典である『李朝語辞典』や『古語辞典』は2005年現在でも本国でしか買えないことを考えると惜しいことをしてしまったと感じられる。

p.791(改訂後無くなった見出し語には下線を引いておいた)

-히-(補幹)

-히(語尾)

·히(助)<古>①-가。<現>이. 가. ②-と。<現>와.

-히(補幹)<古>- (する)ように。-(する)まで。<現>-도록

히뜩

히라(語尾)<古>-なり。<現>이라

히마르느(語尾)<古>이언마느.

히죽

히쭈

히즈리다(自他)<古>①たよる。<現>의지하다.②臥す<現>눕다.

④『精解韓日辞典』金素雲，高麗書林，1968年4月初版(韓国)，1972年2月新版(日本)

韓国における日本語学習者のために作られ，その後日本における朝鮮語学習者のために出版したものである。したがって日本人学習者のための配慮はない。

見出し語 57000，総語数 78000 で，(③養徳)に比べて見出し語が少し減ったが，説明が詳しくなり，用例も増えた。目立つ点は，以下のような外来語の追加，英語の付記である。

옵티미즘 (optimism) (名) オプティミズム。楽天主義 ←→ 페시미즘

옷 (名) ①衣服，衣(コロモ)，着物 ②<印>表紙に被せたカバー 1. clothes 2. a cover

ただし，文法的な説明やそれに関連した用例の中には以下のように③の『現代朝鮮語辞典』と似ているところが多い。

『現代朝鮮語辞典』	-던	(語尾)	用言の語幹について，過去を回想して話す時に使う連体形語尾で，下の体言に続く： -した-。-だった-。	어제 깊~ 물이 오늘은 얕다.きのう深かった水が今日は浅い。
『精解韓日辞典』	-던	(語尾)	用言の語幹に付き過去を回想している語。連体形下の体言に続く。…した。…だった。	어제 깊~ 물이 오늘은 얕다.きのう深かった水がきょうは浅い。

この辞典の日本語には誤植が多い。何より辞典全体の信用にかかわるミスは，見出し語の一部をとばした点である。662 頁의 올챙이[ol-chaeng-i]⁵から

⁵ 以下，辞書に載っていないハングルの読み方は 1959 年韓国の文教部が告示したローマ字表記法によるものである。

오싸다[om-ssa-da]の間には(②大学)を基準にして6個, (③養徳)を基準にして42個が抜けている。誤植もそうだが, このような点から作り方のずさんさが感じられる。

⑤『民衆エッセンス韓日辞典』安田吉実・孫洛範, 民衆書林(発売:三修社), 1983年4月

⑤-1『新訂民衆エッセンス韓日辞典』安田吉実・孫洛範, 民衆書林(発売:三修社), 1994年6月

⑤-2『ポータブル日韓・韓日辞典』民衆書林編集局, 三修社, 1997年7月第1版, 1998年4月第2版

(⑤民衆)は(④高麗)と同様, まず韓国における日本語学習者のために作られ, その後日本における朝鮮語学習者のために発売されたものである。しかし, ハングルの読み方がアルファベットでついている。見出し語数は提示されていないが, おそらく(③養徳)の12万語を上回るようである。何より豊富な同意語の提示でも本格的な辞書として十分認めることができる条件を備えている。ただし, 韓国人を対象にした辞典だけに, 用言は原形しか提示していない。勿論変則活用用言についての提示もない。また, (⑦白水)を除いて他の辞書にもよくある例だが, 動詞の原形を入れて作った以下のような文章が用例に数多く含まれている。

우리다 ㉠ ㉡((소리가)) (音が)出る; 鳴る; 鳴り渡る; ((진동하다)) 響く。
/종이 울려 퍼지다 鐘が鳴り渡る

問題は, 用例の中の「渡る」にあたる動詞として, 実際の活用形ではなく原形である「퍼지다」[peo-ji-da]を使っている点である。朝鮮語の動詞の原形は日本語の終止形とは違って, 実際の文にそのまま使われることがあまりない。つまり, この用例が日常で実際使われる文章になるためには「퍼진다」[peo-jin-da]にしなければならない。中学生以上の韓国人ならこの用例をそのまま移して使う心配はない。しかし, 外国語として朝鮮語をはじめて学ぶ日本

人学習者にそれを求めるのは無理であろう。この点を除けば、載っている用例はおおむね適切で自然な朝鮮語と思われる。

⑤-1『新訂民衆エッセンス韓日辞典』は、正書法の改定である 1988 年 1 月の「ハングル正書法」・「標準語規定」および 1990 年 9 月の「標準語母音」にあわせて改訂したもので、用例の一部も改訂したようである。

⑤-2『ポータブル日韓・韓日辞典』は⑤-1 の簡略版で、韓日に約 72000 語、日韓に約 50000 語を収録した。しかし、ハングルの読み方がついていない。

⑥『朝鮮語大辞典』(上・下)大阪外国語大学朝鮮語研究室, 角川書店, 1986 年 2 月

総語数 21 万語で、他の辞典と比べようがない程度の大辞典で、絶版になった現在も一般学習者から専門家に至るまで影響力がある。最初から日本人を対象にしたものだけに、用言の変化形に関する配慮がなされており、用言の変化形を以下のように見出し語にまでしている。

도는 돌다[ㄷ→0](回る)連体形現在。

しかし、「暑い」の連体形現在である「더운」[deo-un]は「回る」と同じく変則活用なのに載っていない。そもそも朝鮮語の用言の変化形すべてを辞典に載せることは不可能であるが、変化形の一部を選んで載せるならばどのような規準で選んで載せるのかを明らかにし、一貫性を持たせなければ意味がないのではないかと思われる。

この辞典の凡例によれば、ハングルの読み方は、重要語に限ってカタカナと音声記号でつけたそうである。しかし、実際は重要語ではない単語の一部にも音声記号で読み方がついている。これについても理由や基準が示されておらず、一貫性が見えない。

この辞典について一番気になる点は、用例に「日本文学から」「日本の詩歌から」「日本の歌から」「日本の古典から」が入っていることである。つまり、

日本の文学作品を翻訳して用例に入れたということであろう。これに関連して序文で「既刊の外国語辞典のわくにとらわれない自由な試み」の一環であると言っているが、果たしてどのような理由でその必要性があるのだろうか。しかも朝鮮人韓国人ではない者の翻訳の採用となれば論外である。

そして、用例として朝鮮語の「文学から」といって高い割合で登場する作品の中に『ユンボギの日記』がある。しかし、これは文学作品と言うことのできない小学校 4 年生の日記である。社会的に話題になったものには違いないが、その話題性は文章が標準的なものであることとは関係がない。韓国では現在でも小学生向けの読み物として出版されているが、その中には専門作家がリライトしたものもある。つまり、元の作品の文章の水準がさほど高くないことはこのような事実が語っている。用例の採用基準についていろいろ意見がありうるが、『ユンボギの日記』はどのような理由をつけても専門的な作家の文章と対等に扱うことができないものである。

また用例の話になるが、この辞典は他の辞典と違って、長い用例が多い。例えば、1379 頁「成功」にあたる単語が載っているが、その下に「新聞記事から」と言って、1978 年 1 月 12 日の記事の一部が 22 行にかけて引用されている。日本人学習者は、「成功」という漢字でこの単語の意味をすぐ理解するはずである。どうしてこのような用例が必要なのか理解できない。用例を必要とするところは、日本語と同じ漢字を使い、意味も一通りまたは二通りしかない名詞より、日本語訳が何通りもあって、しかも使い方が日本語と微妙に違ったり変則活用だったりする用言や、直訳ができないものが多い副詞ではなかろうか。また用言に用例を入れる場合でも以下のように二つ以上の長い例文を載せているが、語学的にも全く違いのないものなら一つで十分であろう。用例が豊富に載っているように見えるが、実の中身は豊富ではないのである。

부릅뜨다 블루드ゥ다 buri^Ptida (怒り込めて目を)むく, (目を)むいて怒る, いからす, かつと見開く: 눈을 부릅뜨고[nun-eul-bu-reub-ddeu-go] 노려보다

目をむいてにらみつける ; 그는 호랑이처럼 눈을 부릅뜨고[nun-eul-bu-reub-ddeu-go] 나를 노려보고 서 있었다 彼は虎のように目をいからせ(ぎらつかせ)てわたしを見すえて立っていた。

そして、この辞典は、凡例で明らかにしたうえ北と南の辞典を参照している。用例などをそのまま使った場合もある。問題は北と南のものが表示もなしに混在しているところである。北と南の言葉はおおむね同じだが、使い方が全く違うものも少なくない。

それ以外にも母語話者にも引けない不適切な見出し語、根拠不明の語源提示などの問題がある。そして、例えば下巻 2494 頁には「神」にあたる見出し語の参考説明として「人間を超越した威力者で、宇宙の創造・主宰であり不可思議な能力を持ち人間に禍福を下すと考えられている汎神論的な神」が載っている。このような説明が朝鮮語辞典にどうして必要なのか。このようなものを含めて、「どちらかといえば」などの言い方で始まる朝鮮語に関する編者の講義は、読み物としては面白いかもしれないが、言語辞典に必要なかどうか疑問である。総合的な印象を言うと、この辞典は言語辞典より百科事典を目指しているように見える。

⑦『コスモス朝和辞典—第2版—』菅野裕臣ほか7人、白水社、1988年11月初版、1991年11月第2版

見出し語1万強、総語数1万8千語で、規模としては②『大学書林朝鮮語小辞典』よりも語数が少ない小辞典である。しかし、この辞典は日本人学習者のための徹底的な配慮がなされた初めてのものではないかと思われる。まず、ハングルの読み方が音声記号とカタカナで付いている。用言の変化形は、(②大学)のように原形の説明の中にも入れておきながら(⑥角川)のように見出し語にもなっている。見出し語にした変化形には一貫性があり、用言の変則活用について完全に理解していない初学者も引けるようになっている。そして、なにより画期的なことは、「…ている」にあたる朝鮮語表現の使い分けの問題を解決してくれたことであろう。朝鮮語のアスペクト表現には「…고

있다」[go-id-dda]と「…아(어) 있다」[a(eo)-id-dda]があり、動詞によって使い分けをしなければならない。しかし、その明確な基準の提示が困難なため、中級以上のレベルの日本人学習者もよく間違えるものである。この辞典は[go-id-dda]を使う動詞に以下のように㉔という印をつけてくれた。

치우다[tʃ^hiuda チウダ], 치워[tʃ^hiwo チウオ]; 안〜, 못〜[他] ㉔
片付ける。

それ以外にも上の例にもあるように短い否定形があるかどうかについての提示や、書き言葉と話し言葉の違い、南北の綴りや語義の違いも明示しており、他の辞典とは違う点が多い。特に用例はさまざまな要素を取り入れて丹念に作られたもので、朝鮮語としてもあまり無理がない。語数の規模からしても、説明の仕方にしても、朝鮮語をはじめて学ぶ学習者を念頭において作られた辞典であることがわかる。ただし、この辞典は、用言の活用を「語基」で説明する文法体系によるものである。そのため、その文法体系に慣れていない学習者は使いにくいと感じるかもしれない。

㉔ 『朝鮮語辞典』油谷幸利ほか3人, 小学館, 1993年1月

㉔-1 『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』油谷幸利ほか3人, 小学館, 2004年5月

総語数11万語で、重要語1650は大文字にし、北の言葉も採録した。また、用言の変化形からも引けるように配慮し、アスペクト表現も提示するなど以前の辞典のよさを受け入れたうえ、紙の質もあげたりして見やすさまで考慮した辞典である。現在の一般学習者および専門家にまでも影響力が強いものであろう。ところが、一部の見出し語の説明に間違いがある。何よりも用例に問題が多い。確かに用例が豊富ではあるが、(㉔角川)のように語学的に差がない用例が二つ以上続く場合が多い。しかも朝鮮語として成り立たない文章があまりにも多く、他の辞典には例のないほど群を抜いている。おそらく母語話者のチェックなしに日本人によって作られた文章がそのまま載ってい

るのではないかと思われる。それは辞典編纂ではあってはならないことであろう。外国語学習者にとって辞典に載っている用例は、見出し語以上に大事である。しかも学習者は辞典について疑わない。というより疑うことができない立場におかれている。その点、間違った用例はむしろない方がはるかにましであろう。このことについては、後で具体的な例をあげて詳しく述べる。

⑧-1『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』は、序文に何にも書いていないが、見出し語の説明および用例が(⑧小学)とかなり重なっており、その簡略・修正版としてみてもよいだろう。ハングルの読み方はカタカナで最重要語にだけつけている。用言の変化形の提示方法とアスペクト表現に関する処理は(⑦白水)の方法を全面的に受容し、改善している。小辞典らしく用例が省かれ、特に(⑧小学)で問題になった用例がだいぶ消えたが、一部はまだ残っている。

(⑤-2 三修)と(⑧-1 小学)のように用例が殆どない小辞典は、単語帳としての役割は果たしてくれる。初級レベルの学習やちょっとした旅行の時などには使いやすいかもしれない。

⑨『Prime 日韓辞典』(電子辞書)

日本では紙の辞典としては発売されたことがないが、現在販売されている電子辞書に入っているものは韓国の斗山東亜出版社から1994年出版されたこの辞典である。(⑤民衆)と同じくもともと韓国人の日本語学習用として作られたもので、用例などに大きな問題はないが、ハングルの読み方や用例など日本人学習者のための特別な配慮はない。

⑩『例解新韓日辞典』林四郎ほか3人・金貞淑編訳、民衆書林(発売：三修社)、1996年4月

もともと韓国の日本語学習者のため出版したものを日本人の韓国語学習用として新たに編集した辞典のようである。凡例に、見出し語は韓国の中学校レベルのものにしたとなっているが、総語数などは載っていない。辞典の厚

さは(⑤民衆)ぐらいだが、収録語数はそこまで至らず(⑤-2 三修)とほぼ同じ水準ではないかと思われる。ハングルの読み方がところどころ付いているが、つけた基準が見えない。(②大学)のように変則活用用言の変化形を提示しているが、過去や回想などを表す文法的な要素を見出し語にしなかったことまでも(②大学)と同じで、学習者のための配慮が一部後退した感じがする。用例は、(⑤民衆)・(⑧小学)などと重なるものが多く、おおむね朝鮮語として大きな問題はないが、日本人学習者を意識しているところが多いとは言えない。ただし、紛らわしい朝鮮語単語を二つ対比して説明した「囲み記事」は日本人学習者に有効ではないかと思う。

2. 各辞典における問題点

ここでは、各辞典の見出し語を検討した結果見つかった問題点を、詳しい例を通して見てみる。検討はとりあげたすべての辞典を対象にしたが、見出し語は、重要文法と関連するものを優先し、それ以外はランダムに選んで辞典同士を比べる方法で行った。

2.1 綴りが間違っている場合

朝鮮語を表記するハングルの綴りは母語話者さえよく間違えるものがあるぐらいややこしい。ハングルの綴りは母語話者も辞典に頼るほかないのである。綴りを決める正書法は南と北で違うので、それについては触れないことにしたが、凡例で基準を明らかにした後、それに反したものを載せた場合はその範疇に入らない。

南の正書法は、1933年朝鮮語学会によって「ハングル正書法統一案」ができ、1946年ハングル学会によって改定された案が1948年に政府に採択された。その後、1988年1月文教部が改定案である「ハングル正書法」・「標準語規定」を告示し、1989年3月1日から試行した。(⑧小学)は、1989年の改定によるものであることを凡例で明らかにしている。ところが、以下のように間違った綴りが見られる。

(⑧小学)44頁に, 「이 돈은 감사하게 빌겠습니다[bil-ged-seub-ni-da]. このお金はありがたくお借りします。」が載っているが, 「お借りします」にあたる綴りは「빌리겠습니다」[bil-li-ged-seub-ni-da]に直さなければならない。「借りる」にあたる単語は1989年の改定内容に入っているものである。

また, (⑧小学)と(⑧-1 小学)に「①心当たりがある。②気がとがめる。」にあたる朝鮮語として, 「마음에 지피다」[ma-eum-e-ji-pi-da]が載っている。これは「마음에 짚이다」[ma-eum-e-jipi-da]の間違いであろう。また同じく二つの辞典に「頭にくる」の朝鮮語として, 「열에 받히다」[yeol-e-bachi-da]が載っているが, これも「열에 받치다」[yeol-e-bad-chi-da]の間違いである。この二つの綴りは1989年の改定内容とは関係のないものである。

辞典が正しい綴りの基準になることは言うまでもない。辞典も出版物なので誤植がつきものであるが, 普通の辞書は版を重ねるたびに訂正を行っている。この辞書の場合のように新たに出版される簡約版にまで誤りを残さなければいけない理由が何なのかは理解できない。

2.2 説明が間違っている場合

見出し語についての説明というのは, 辞典の一番基本になるところである。もしそこに間違いがあったらどうなるのだろうか。そのことの深刻さについて改めて述べる必要もないほど明らかな問題である。ここでは, 見出し語に対する説明に間違いがある例をいくつか提示する。

・기봉소설(奇逢小説)[gi-bong-so-seol]

まずこの見出し語が外国語としての朝鮮語辞典に必要かどうかは疑問だが, それはさておき, 説明をみよう。

「偶然と僥倖を主題とした小説」(⑤民衆), 「偶然(우연)と思いかけない幸せ(요행僥倖)を主題とする小説」(⑥角川), 「偶然と僥倖を主題にした小説」(⑧小学)となっている。つまり, すべての辞典に大差がないのである。しかし, 「偶然と僥倖」が小説の主題になるものなのか。偶然と僥倖は話の展開記法

にはなるかもしれないが、主題にはなれるものではないと思う。ちなみに朝鮮時代の小説の殆どが偶然と僥倖によって話が展開する。この見出し語の説明は、「奇異なる縁で会うことを主題とした小説の類型の一つ。偶然と僥倖が多い。」ぐらいになるだろう。実は、この間違いは、韓国の国語辞典である李熙昇の『国語大辞典』やハングル学会の『ウリマル大辞典』などにもあった。そちらにも、「우연과 요행을 주제로 한 소설」つまり、「偶然と僥倖を主題とした小説」になっている。

日本で朝鮮語辞典を作るとき韓国の国語辞典が参考になることは当然のことで、参考の元に間違いがあった場合それがそのまま入ってしまうことは仕方ないかもしれない。しかし、このような間違った説明によって韓国文化についての理解どころか誤解が生じるのではないかと思う。

・달래[dal-lae]

これが見出し語になっている辞典は(⑥角川)と(⑧小学)しかない。ところが、その説明に食い違いが見える。(⑥角川)には「…くれと言え」といい、命令表現になっているが、(⑧小学)には「くれだって、ちょうだいだって」といい、伝聞表現になっている。実は、これは用言の原形ではなく、活用させた後縮略まで行われた形で、文脈によってどちらにもなりうる言い方である。この場合は原形が何であるか分かりにくいのでこの形が見出し語に採用されるのには一理ある。

前も述べたように、日本人学習者のためには用言の原形だけではなく変化形の提示が必要ではないかと思うが、しかしどこまで変化形を提示するかその用法の説明についてあらかじめ原則をたてておかぬとこのような問題が起こると思われる。

・담담하다[dam-dam-ha-da]

(⑥角川)の説明の中には、「1(水が)澄んでいる、清い 2(月の光が)明るい、澄んでいる…5 平凡だ、普通だ、(物が)月並みだ、陳腐である、ありきたりだ

6(川の流れが)ゆったりしている, 悠然としている, とうとうたる」になっている。(⑧小学)(⑧-1 小学)には、「1(水・月光などが)澄んでいる…4(水の流れが)とうとうとしている, ゆったりしている」になっている。

しかし, この見出し語の一番目, 二番目にくる基本的な意味が「(水や月の光が)澄んでいる, 明るい」であることには納得いかない。むしろ, この見出し語は二つの辞典の後ろに載っている「淡淡としている」の方が, もっとも一般的で頻度が高い意味である。

韓国の『標準国語大辞典』によれば, この見出し語の「담담」[dam-dam]にあたる漢字には, 「淡淡」と「潭潭」二つある。「淡淡」の場合は, 「1 静かで平穏だ 2 私情が入っていないくて客観的だ 3(水の流れなどが)奥深く平穏だ 4(味が)淡白だ」となっている。「潭潭」の場合は, 「水が深く広い」となっている。ここまで見ても「(水や月の光が)澄んでいる, 明るい」とはだいぶ差があると思われる。そして, 「とうとうたる」(⑥角川)や「とうとうとしている」(⑧小学)の場合ほどの漢字を当てるか分からないが, 特に(⑥角川)の用例である「담담하게 흐르는 저 강물엔 지나간 역사가 깃들어 있다. とうとうと流れるあの川の水には過ぎ去った(過去の)歴史が溶け込んでいる。」から推測すれば, 「蕩蕩」または「滔滔」ではないかという感じもする。ちなみに, 朝鮮語には「蕩蕩」にあたる「탕탕」[tang-tang]が, 「滔滔」にあたる「도도」[do-do]があり, 「蕩蕩」は「水などの流れが激しい」ことを, 「滔滔」は「水がいっぱい広がって, 流れる様子が止まることなく力強い」ことを表す単語として存在している。

また, (⑥角川)が五番目の意味として提示している「平凡だ」という意味が載っている辞典は北のものは勿論韓国の国語辞典まで含めてどこにも存在しないようである。

• 말뚝잠[mal-ddug-jam]

(⑥角川)には, 「座ったままの居眠り」(⑧小学)には「座ったまま寝ること」になっていて, 大差がない。しかし, (⑤民衆)には, 「真っすぐに座ったまま

でねむる眠り」になっている。少しの差しかないように見えるが、実際の差は大きい。なぜかというところ、この単語は、「真っすぐに」というところにポイントがあるからである。この単語は横になることができない何らかの事情があって、やむをえず不便な姿勢である真っすぐに座ったまま居眠りするまたは寝ることを意味する単語である。従って、授業中や電車での普通の居眠りや寝ることには使えない。

・ 용하다[yong-ha-da]

この単語の意味として、(⑥角川)には、「1 奇特だ, 殊勝だ, 賢い 2 腕がいい, 才幹がある, 上手だ, 腕が抜群にいい 3(性質が)おとなしくてもの足りない」が載っている。(⑧小学)にも、「1 腕がいい, 器量が優れている, 上手だ 2 あっぱれだ, すばらしい, 偉い 3 愚直だ, ばか正直だ」になっており、大差がない。しかし、三番目の意味には異質感がある。(⑦白水)には、「大したものだ, なかなかだ, 上手だ」だけ載っていて、この意味は載っていない。(⑤民衆)は、見出し語を二つに分けて、ハングルの綴りは同じだが、一つは漢字なしの固有語として「腕前[伎倆]が勝れてたくみだ, うまい」意味を、もう一つは「용하다(庸--)」[yong-ha-da], つまり漢字語として「おとなしくて人好しだ」の意味を載せている。それなら納得がいく。朝鮮語はハングルの綴りが同じでも該当する漢字が違ったりして全く違う単語である場合が珍しくない。このようにもともと違う単語を一つにまとめて扱う方法は辞典としてありえないことであろう。これは多分(⑥角川)が北の辞典を参照にしたからではないかと思われる。

・ 자명종[ja-myeong-jong]

(⑧小学)にこの意味として「目覚まし時計」が載っており、その下には「最近では따르릉 시계[dda-reu-reung-si-gye]が用いられる。」となっている。勿論「따르릉 시계」[dda-reu-reung-si-gye]も通じるだろうが、母語話者なら思わず笑うだろう。これは目覚まし時計が鳴る音を表わす擬声語である「따르릉」

[dda-reu-reung]に「時計」にあたる単語をくっ付けて即興的に作ったものであり一般的に認められた言葉ではない。

・ 짭짭하다[jjib-jjil-ha-da]

(⑥角川)には「少し塩辛い」、(⑧小学)には「塩辛い、しょっぱい」になっている。たった「少し」の差だが、その差は大きい。この見出し語は、少し塩気があることを表現する形容詞で、塩辛さから言えば薄味である。「少し」または「やや」が入っていない説明ならば誤解が生じるだろう。

2.3 文章が間違っている場合

辞典にどのような用例を載せるべきかについては様々な意見があり、母語話者用の国語辞典を作るときはその基準を決めることがとても大事らしい。外国語学習のための辞典の場合は母語話者用の辞典とは違う観点で基準を作り、用例を提示すべきではないかと思う。外国語学習者においての辞典は、見出し語の意味だけではなく、対象外国語に関するすべてを正確に提供するものでなければならない。そこに載っている用例は、実際にそのまま使えるものにする配慮が必要である。少なくとも文章として成り立たない文は絶対載せてはいけないだろう。それは自然さや不自然さの問題以前のものではないかと思う。以下の例は、そのことに違反したものであるが、目についたもののうちほんの一部に過ぎない。

・ 감기다[gam-gi-da]

(⑧小学)に、「絡みつく」という意味として、「비단옷이 몸에 감긴다. 絹の服が体に絡みつく。」が載っている。これは文法的には間違いないかもしれないが、この用例を使ったら見出し語の意味の理解に役に立つよりむしろ誤解が生じる可能性があると思う。この見出し語の意味を、より正確に実感させるためには(⑥角川)の「젖은 옷이 몸에 감긴다. ぬれた服が体にまっわりつく。」のように「絹」ではなく、「ぬれた服」にした方がいいだろう。

・ 감기다[gam-gi-da]

「(髪を)洗わせる」という意味として、(⑧小学)に「어머니는 언니에게 동생의 머리를 감겼다. 母はお姉ちゃんに妹の頭を洗わせた。」という用例が載っている。日本語には問題がないかもしれないが、朝鮮語としては、誰が誰の髪を洗わせたかわけのわからない文章になってしまう。日本語に合わせて直すと「어머니는 언니에게 동생의 머리를 감기게 했다.」ぐらいの文になる。

・ 감다[gam-dda]

この見出し語の意味は「巻きつく、とぐろを巻く」で、(⑧小学)には「뱀이 몸을 서러 감고 있다. 蛇がとぐろを巻いている。」が用例として載っている。しかし、その用例の中に入っている「서러」[seo-ryeo]は「巻きくるめて、蛇などがとぐろを巻いて」という意味である。つまり、この用例は「巻く」にあたる単語を二つ重ねて使った間違った文章である。

・ 거추장스럽다[geo-chu-jang-seu-reob-dda]

意味は、「やっかいだ、面倒だ、手に余る、足手まといだ、煩わしい」などである。(⑧小学)の用例として「거추장스러운 문제 厄介な問題」が載っている。これも日本語には問題がないかもしれないが、朝鮮語としてはあまり見たことのない組み合わせである。この見出し語は、服・荷物・仕事などと組み合わせる場合が自然である。

・ 달그랑[dal-geu-rang]

この意味として(⑧小学)にも「薄くて小さい金属などが軽くぶつかって響く音」が載っている。ところが、この単語を重ねて使った場合の用例として「접시 닦는 소리가 달그랑 달그랑[dal-geu-rang-dal-geu-rang] 들린다. ちゃちゃちゃと皿を洗う音が聞こえる。」を載せている。この用例は(⑧-1 小学)にも残っている。皿が金属製ならべつだが、普通の皿ならその皿を洗う音を朝鮮語に

すると、「달그락-달그락」[dal-geu-rag-dal-geu-rag]になる。(⑥角川)の用例のように「깡통이 달그랑 달그랑[dal-geu-rang-dal-geu-rang] 흔들거린다. 缶がかちゃかちゃと揺れ動く。」の方が無難であろう。

・ 달게 받다[dal-ge-bad-dda]

(⑧小学)に、見出し語「달다[dal-da]5」の慣用句としてこれが載っており、意味は「甘受する、甘んずる」になっている。そして、その用例の中に、「저의 의견을 달게 받아들여 주셨다. 私の意見を快く受け入れてくださった。」がある。しかし、この慣用句は、苦難、批判、忠告、罰など普通なら快く受け入れることができないものを当然のこととして、慎んで受け入れるという意味である。「意見」というのはそのような類のものではない。

・ 더듬거리다[deu-deum-geo-ri-da]

この意味は「手探りをする」で、その用例として、(⑧小学)には「불이 나가서 플래시를 더듬거리며 찾았다. 停電になったので懐中電灯を手探りできがした。」が載っている。一般的に日本語と朝鮮語の語順は一致する。しかし、すべてではない。この用例がまさにその例で、日本語の語順をそのまま直訳したこの朝鮮語は、「懐中電灯を手で探りながら(何かを)探した」という意味にも捉えられる。従って、朝鮮語の語順を「停電になったので手探りで懐中電灯をさがした」に直すべきである。

・ 명태[myeong-tae]

意味は、「すけそうだら」であり、用例として(⑦白水)に、「명태는 생선[saeng-seon] 그대로 말려서도 먹을 수 있는 맛있는 물고기[mul-ggo-gi]다. すけそうだらは生のままほしても食べられるおいしい魚だ。」が載っている。これは、「명태는 말려서 그냥 먹을 수 있는 맛있는 생선[saeng-seon]이다. すけそうだらはほしてそのまま食べられるおいしい魚[saeng-seon]だ。」に直すべきであろう。理由は「생선」[saeng-seon]は「生のま

ま」の意味ではなく「(食物としての)魚」の意味で、「물고기」[mul-ggo-gi]は食物に限らない魚類の総称であるからである。この辞典の場合は、前も述べたように様々な要素を考えて工夫して作った用例が載っている。例外ではあるがどうしてこのような用例が載っているのか疑問である。

・ 물렁물렁하다[mul-leong-mul-leong-ha-da]

(⑧小学)にこの意味として、「ぶよぶよする, だろだろする」になっており、用例の中に「물렁물렁한 진흙탕 속에 떨어진 가락지를 찾아내기는 어려웠다. だろだろした泥の中に落ちた指輪を探し出すのは難しかった。」が載っている。しかし、用例のように泥を修飾する言葉としてこの語は使われない。擬声語や擬態語のなかにある間違っただけの用例は他にもあるが、この程度で止めることにする。

・ 발언권[bareon-ggweon]

意味は「発言権」である。(⑧小学)の用例として「~이 서지 않는다. 発言力がない。」が載っており、(⑧-1小学)にもそのまま残っている。しかし、「発言権が立たない」になっているこの用例は朝鮮語として初耳である。

・ 부르다[bu-reu-da]

この意味として(⑥角川)には「呼ぶ, 来いと言う, 召集する, 招く, 招待する」が載っており、その用例として「발기인 측에서 어떠한 계획으로 오늘 이 회의를 불렀는지 말씀해 주십시오. 発起人の側からどういう計画で今日この会議を召集したのかお話してください。」が載っている。この用例のポイントは「召集した」だが、その使い方が間違っている。「会議」の場合はこの用言は使えない。

ところが、この用例はもともと北の『朝鮮語辞典』⁶のものである。前も述べたように(⑥角川)は『朝鮮語辞典』を積極的に参照し、南のものとの区別

⁶ 科学院言語文学研究所辞典研究室(1962) 『朝鮮語辞典』 朝鮮民主主義人民共和国科学院出版社(発売: 学友書房)

もしないで混ぜている。1992年出版された『朝鮮語大辞典』⁷にはこの用例が省かれていることをみると北でも使えなくなった表現かもしれない。

・성가시다[seong-ga-si-da]

この意味は「うるさい, めんどうだ, 厄介だ, 煩わしい」などである。(⑧小学)の用例として「성가시게 아이에게 달라붙은 파리를 쫓았다.うるさく子供につきまとっているハエを追い払った。」が載っている。これは単純な誤植かもしれないが、「つきまとっている」にあたる朝鮮語の「달라붙은」[dal-la-buteun]は過去連体形で、これを使うと「子供にハエがうるさくつきまとっているので追い払った」のか「子供につきまとっているハエを追い払うことが煩わしかった(?)」のか分からない文章になってしまう。「달라붙는」[dal-la-bud-neun], つまり現在連体形に直すと前者の意味の文章になる。

・양갓음[ang-gapeum]

意味は「仕返し, 報復, 復讐」である。(⑧小学)の用例として「원한을 양갓음하다 恨みをはらす」が載っている。しかし, このように, 「恨み」にあたる朝鮮語「원한」[weon-han]を目的語にすることは見たことがない。母語話者の立場からこの用例を見ると, 「復讐を復讐する」のような感じがする。

・어정정하다[eo-jeong-jeong-ha-da]

意味は「いかがわしい, ばつとしない, いぶかしくて気がかりだ」ということで, (⑧小学)には「언제 일인지 어정정해서 생각이 잘 안 난다. いつものことやらぼんやりして思い出せない。」という用例が載っている。母語話者ならこのような表現は使わないだろう。

・어찌[eo-jji]

(⑧小学)に, この用例として「이 몸이 사냥꾼의 몸집인데, ~정처가

⁷ 社会科学院言語学研究所(1992)『朝鮮語大辞典』(1・2) 社会科学出版社

있으오리카? この身は狩人の身なのに, どうして決まったねぐらがありましようか。」になっているが, 単語使用が間違っている。「몸」[mom]と「몸집」[mom-jjib]を日本語にすると共に「身」または「体」になるかもしれないが, 「몸집」[mom-jjib]は, 体の大きさまたは体格を意味するので, 中学生ぐらいの母語話者ならこのような文章は書かないだろう。

・ 차다[cha-da]

(⑥角川)に, 「차다[cha-da]3」の用例として「주머니를 ~ 財布を持つ」が載っている。一般的に「주머니」[ju-meo-ni]は「財布」ではなく「ポケット」を意味する。しかし, 「持つ, 付ける」の意味の用言である「차다」[cha-da]を使うと「へそくりがね用の財布を持つ」という意味になると思うが, そのためには「주머니」[ju-meo-ni]の前に「他の」にあたる「다른[da-reun]」がなければならない。続いて「가락지를 ~ 指輪をはめる」も載っている。「指輪」の場合は「끼다」[ggi-da]という別の用言を使う。また「차다[cha-da]4」の用例には「요란한 기계 소리가 그들의 목소리를 차 가고 말았다 やかましい機械の音が彼らの話し声を奪い去ってしまった」が載っている。この用例もなかなか不自然に感じられる。どうしてこのようなおかしい用例ばかり載っているか調べたら, 北の『朝鮮語辞典』そのままである。何の表示もないので, 母語話者の立場からも紛らわしい。

指摘がほぼ(⑧小学)に集中した理由は, 偶々その辞典だけ検討対象にしたからではない。前も述べたように他の辞典, 例えば, (⑤民衆), (⑥角川), (⑦白水), (⑨電子)などの用例も検討したが, (⑥角川)で北の辞典の用例をそのまま使った場合以外はそれほど不自然さが目立つ文章が見当たらなかった。そこで(⑧小学)の用例は, 日本人が作ってそのまま載せたものではないかという推測ができるのである。いくつかの間違った用例が, 大概の用例を削った(⑧-1 小学)にまだ残っていることをみると母語話者チェックの重要性について未だに認識していないようである。

3. その他の問題

(㉔小学) (㉔-1 小学)ともに、「집어뜯다」[jibeo-ddeud-dda]が見出し語として載っており、その意味が「1 かきむしる 2 剥いでとる, 剥ぎ取る」になっている。用例も二つ載っているが二つともおかしい。(㉔角川)にも、この見出し語が載っていることは載っているが、「꼬집다」[ggo-jib-dda]の方言であると説明している。このような説明は、韓国の国語辞典も同様である。つまり、この見出し語自体が間違いである。

見出し語に問題がある例は他の辞典にもある。(㉔角川)には上巻 495 頁に「노인 헌화가」が、つまり「老人献花歌」となっている。これは新羅時代の歌である郷歌の中の一首で、曲名は「献花歌」で、「老人献花歌」ではない。見出し語の頭に任意の単語をつけて載せたら母語話者も引けないだろう。(㉔角川)の場合はこの見出し語以外にも果たして言語辞典に載せる必要があるものなのか疑問になる見出し語が多い。他にも、語形提示における一貫性の欠如、見出し語で提示した日本語と用例の日本語のずれなどの問題もあるが、決定的な問題とは言えない細かい問題なのでここでは触れなかった。

日本人にとって朝鮮語、韓国人にとって日本語はやさしいと言われている。いくらやさしくても外国語であるという認識は本当に必要ではなからうか。少なくとも外国語の辞書の例文は母語話者のものを採用するというのが原則とならなければならない。

日本における朝鮮語辞典の問題は本国の研究成果や辞典に大きな責任があるかもしれない。つまり、まず本国の研究機関や研究者が、外国人の朝鮮語学習者のためには韓国人の日本語学習者のためのものとは違う観点による辞書が必要であることについて認識しなければならないのだと思う。

本稿は、平成 17 年度専修大学研究助成(個別研究)「日本人の韓国語学習に表れる誤用の傾向」の研究成果の一部である。